

ロータリー・グローバル奨学生

活動報告

1 年後

2022 年 10 月

報告者：須藤 伸 青森市浪岡大字浪岡字浅井 195-12 電話：090-8257-8594 メール：shin.s710@gmail.com

青森ロータリークラブ及び青森モーニングロータリークラブの皆様、日頃より大変お世話になっております。グローバル補助金奨学生として、昨年 9 月にロンドン大学東洋アフリカ研究学院を修了し、早くも一年が経ちました。修了後は南アジアに位置するブータン王国に赴任し、国際協力機構(JICA)の職員として仕事をしています。この一年間の活動内容を写真とともに簡単にご報告させていただきます。

自己紹介

須藤 伸 (すとう しん)
青森市(浪岡)出身 35 歳
趣味：旅行、料理、釣り、ダイビング、
ブータン研究、ねぶた囃子

進学先

ロンドン大学 東洋アフリカ研究学院(SOAS)
大学院修士課程 開発学専攻 修了

現地受入先クラブ

エドモントン・ロータリークラブ(ロンドン)

勤務先

2021 年 10 月から
国際協力機構(JICA)ブータン事務所



2022 年 7 月、ブータンのお寺でのお祭りにて。「ゴ」と呼ばれる民族衣装(正装)を着用しています。(ゴは着物に似た男性用の民族衣装です。)

ブータン王国の概要



人 口：約 76 万人(2022 年推計)
面 積：38,394 km²(九州とほぼ同じ大きさ)
首 都：ティンプー(人口約 10 万人)
元 首：ジグメ・ケサル・ナムゲル・ワンチュク国王
政 体：立憲君主制(2008 年から)
民 族：チベット系、ネパール系の他民族国家
宗 教：チベット仏教
言 語：公用語はチベット語系のゾンカ語と英語
航 路：東京からタイ・バンコク経由で約 10 時間



ブータン向け財政支援の調印式



2022年5月、ブータン財務省にて。
(左から二番目が筆者)

2022年5月23日、財政支援の調印式が財務大臣との間で執り行われました。この協力は、新型コロナウイルス危機からの経済的復興のため、ブータン政府に長期の低利貸付を行うものです。(最大33億円を15年間に渡り年利0.01%で貸付するもの。)

私の現在の仕事内容は、新型コロナ対応に係る協力ですが、本案件は私が主担当として協議を続けてきたものです。ブータンの経済復興と成長、日本との更なる関係強化に向けて、一つ大きな仕事の節目を迎えた瞬間でした。

感染症対応型の新病院建設

ブータンのような途上国では、結核をはじめとする感染症や新型コロナ等新興感染症への対応能力強化は深刻な課題です。2022年9月26日、「王立感染症センター」という新たな感染症対策病院を建設するため、約30億円の贈与契約(無償資金協力)が交わされました。

本協力も、私が主担当としてニーズの把握や案件形成に取り組んできたものであり、来年からの着工に向けて、日本の協力が最大限活用されるよう相手国政府とともに協力を続けていきます。



2022年5月、
新病院の建設
予定地にて。
(中央が筆者)

仕事以外の活動



(上)2022年6月、献血キャンペーンでの採血。
(下)2022年9月、パロ空港にて国営航空とともに。

- 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(WAVOC)20周年記念セミナーでの講演「WAVOC提供科目が卒業後のキャリアに与えた影響 —ブータン実習科目から—」(オンライン)(2022年10月)
- 日本評価学会認定評価士合格(2022年10月)
- 日本ブータン学会第6回学会大会の企画・進行(2022年6月)
- Bhutan Centre for Media and Democracy 主催 若手ブータンメディア向け研修での講話(2022年5月)
- 2022年度第1回/第2回ブータン連続セミナーでの講話「ブータンの食事情」(オンライン)(2022年4月)
- きのくに国際高等専修学校での講演「夢探求」(オンライン)(2022年2月)
- ブータンの論文集 The Druk Journal への英語論文掲載「[Democracy and Gross National Happiness: Beyond the Challenges](#)」
- 国際キャリア総合情報サイト Partner コラム投稿 [第77号「地方行政職員から国際協力の道へ」](#)
- 日本ブータン友好協会会報へのコラム投稿「ブータン政府の幸福度調査にJICAが協力 —全土におけるフィールド調査が進行中—」